

## サンゴを守り、自然の恵みに恩返し

## SDGsラジオを聴いてみよう！

化粧品会社のコーセーでは、雪肌精「SAVE the BLUE」プロジェクトという取り組みを進めています。

これはコーセーが手がけるブランド「雪肌精」が取り組む、サンゴや雪などの地球を守る活動です。

温暖化の影響で、サンゴの数はどんどん減っています。

きれいな海を保ち、海洋生物の住処でもあるサンゴを守るため、その植え付けを2009年からずっと行ってきました。

活動開始から2023年までで、累計20,102本になり、その面積は25メートルプール約32.7個分に相当します。

また、サンゴの研究にも取り組み、「サンゴや海に、より優しい日やけ止め」の開発・提供に努めています。

他にもコーセーでは、世界中で植樹などの森林や里山を再生することにも取り組み、地球環境を守る活動を行っています。

自然の恵みに、恩返し。豊かな自然を未来へとつなぐために、みなさんにもできることがきっとあります。

身近でできることがないか、まずは話し合ってみましょう。

## SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



がぞうさんしょう おきなわ  
画像参照：沖縄のサンゴ・イメージ  
（コーセー公式HPより）



がぞうさんしょう うえ かつどうまえ しょうたい  
画像参照：(上)活動前の状態  
した ねんけいかこ しょうたい  
(下)4年経過後の状態（コーセー公式HPより）

サンゴはその見た目から、植物だと思っている人も多いですが、実はイソギンチャクやクラゲと同じ仲間の「動物」です。そしてサンゴが成長し、積み重なることでできるのが「サンゴ礁」です。サンゴ礁は海全体のわずか0.2%しかありませんが、そこで生活する魚たちは魚種全体の65%とも言われるほど、魚たちにとって大切な存在です。またサンゴはたとえ死んでしまっても砂利になって砂場を作り、海をきれいにしてくれるバクテリアたちのすみかになります。ところが近年、海水温上昇によるサンゴの白化現象などで、地球規模で大きく減少しており、「サンゴ礁の再生」が海の生態系を維持するための重要な課題になっています。

化粧品会社コーセーのブランド「雪肌精（せっきせい）」では、地球の恵みに対する恩返しを込めて、2009年から「SAVE the BLUE」という活動を通して、地球環境の保全を支援してきました。「雪肌精」では、売り上げの一部をサンゴの植え付けや育成などに役立てています。活動開始から2023年度までに、累計2万本以上のサンゴの植え付けを行い、その面積は25mプール約33個分に相当し、現在も拡大を続けています。雪肌精では他にも2023年から、そのブランド名にちなんで、長野県北アルプスの「雪」を守る活動もスタートしています。またコーセーのブランド『Flora Notis JILL STUART（フローラノーティス ジルスチュアート）』では、森林の再生にも積極的に取り組んでおり、フィリピンで「モリンガ」という木の植林活動を2022年から実施しています。2023年は、676本の木を植えました。モリンガは美容成分が豊富なだけでなく、一般的な樹木に比べて約20倍もの二酸化炭素を吸収する植物で、人にも地球環境にも優しい植物として注目を浴びています。今、世界中の企業がそうであるように、コーセーでもいろいろな角度から環境保全活動を続け、地球の未来に貢献しています。

## キーワード

## バクテリア

いわゆる細菌のことで、さまざまな環境に生息し、人間をはじめとした生物にとって有益なものと、病気などの原因になるものに分かれます。

## 白化（はっか）現象

サンゴは、体の中にある「褐虫藻（かっちゅうそう）」という植物プランクトンが光合成で作り出す栄養を得て生きています。白化現象とは、この褐虫藻が失われてサンゴの白い骨格が透けて見える現象のことで、この状態が続くとサンゴは壊滅してしまいます。

## モリンガ

ワサビ科の植物で、ミラクルツリー（奇跡の木）とも呼ばれ、バランスのとれた栄養素を含んでいる樹木です。木のすべての部分で利用価値が高いと言われています。

## 対象ゴール



## みなさんにできること！

豊かな自然を守るために何をするべきか、みなさんで話し合ってみましょう。

- サンゴは植物ではなく、イソギンチャクやクラゲと同じ仲間の「動物」。
- サンゴを保護することは、海洋生物の生態系の維持につながる。
- コーセーでは、サンゴ保全や植樹などさまざまな環境を守る取り組みを積極的に行っている。

## メモ

